

## ともに学び、つながり、生活を見つめる子を育てる総合的な学習の時間の工夫

～協同的な学習活動の支援と評価活動を通して～

うるま市立中原小学校教諭 佐々木 千世

### I テーマの設定理由

現代の社会は、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる活動の基盤として飛躍的に重要性を増す「知識基盤社会」といわれている。このような社会に対応しながらよりよく生きていくためには、主体的に新しい知を創造していく探究型の思考が求められている。さらに、東日本大震災での様々な復興の取り組みが示すように、共に支え合って生きていく感性も、今後より大切になってくる。そのためには、児童がひと・もの・こととつながって、お互いの生き方から学び、より豊かな人間関係を進んで築く力を、「福祉」の視点から育てることは重要である。

総合的な学習の時間は、各教科で習得した知識・技能を生かしながら、自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとしていることから、ますます重要な役割を果たすものである。それは、未知の課題に対応することが求められている時代を児童一人ひとりが生きていく上で、「生きる力」の育成が極めて肝要だからである。また、平成24年度から推進されている沖縄県学力向上施策「夢・にぬふあ星プランⅢ」では、児童・生徒の社会力を培うためには、発達の段階に応じて、他者と協力・協同しながら主体的に行動し進んで学ぼうとする意欲・態度の育成が必要であると示されている。

さて、昨年度の私の総合の実践（4年・福祉）を振り返ると、車椅子やアイマスク等の疑似体験活動を基盤に単元を進めたものの、児童が自分の生活や生き方を見直し考えを深めるところまでには至らなかった。その理由の一つとして、指導者である私自身が、単元の計画作成の段階で、障がいのある人達の生き方から学び、共に人間らしく生きるあり方を見つけていく視点が十分ではなかったと考えられる。

本学級の在籍児童は40名だが、9月の意識アンケートで「身体の不自由な人達を見かけたことはあるが関わったことはない」と答えた児童が32名であった。また、同月の学級活動で実施したグループエンカウンターで、グループ活動を積極的にすすめていたにもかかわらず、「今日のゲームで、私はグループの役に立たなかつた」という感想を書いた児童が16名で、約半数を占めていた。このような、人とかかわる経験があまりなく自分にあまり自信が持てない傾向がある本学級の児童にとって、自分と異なる環境で前向きに生活している地域の人達と出会い、学級の友達や地域の人と交流しながらお互いの考え方を認め学び合うことは、物事を広く見たり考えたりすることのよさを実感し、自己有用感が育つききっかけとなるだろう。

本研究では、ともに学び、つながり、生活を見つめる力を育てるために、協同的な学習活動が活発になるよう、ねらいを明確にした支援を行う。そして、単元「つながろう・こころとこころ」を見直し、単元全体を通して自他のよさが実感できるように評価活動の工夫を行う。さらに、障がいを乗り越えながら生き生きと生活している人達の生き方や、それを支える人達の想いに気づくことで、児童の発達段階や生活体験に即して、自己を振り返り、学んだことを今後の生活に生かす意欲が芽生えるものと考え、本テーマを設定した。

### II 研究目標

学習領域「福祉」において、協同的な学習活動の支援と評価活動を工夫することにより、ともに学び、つながり、生活を見つめる児童を育成する。

### III 研究仮説

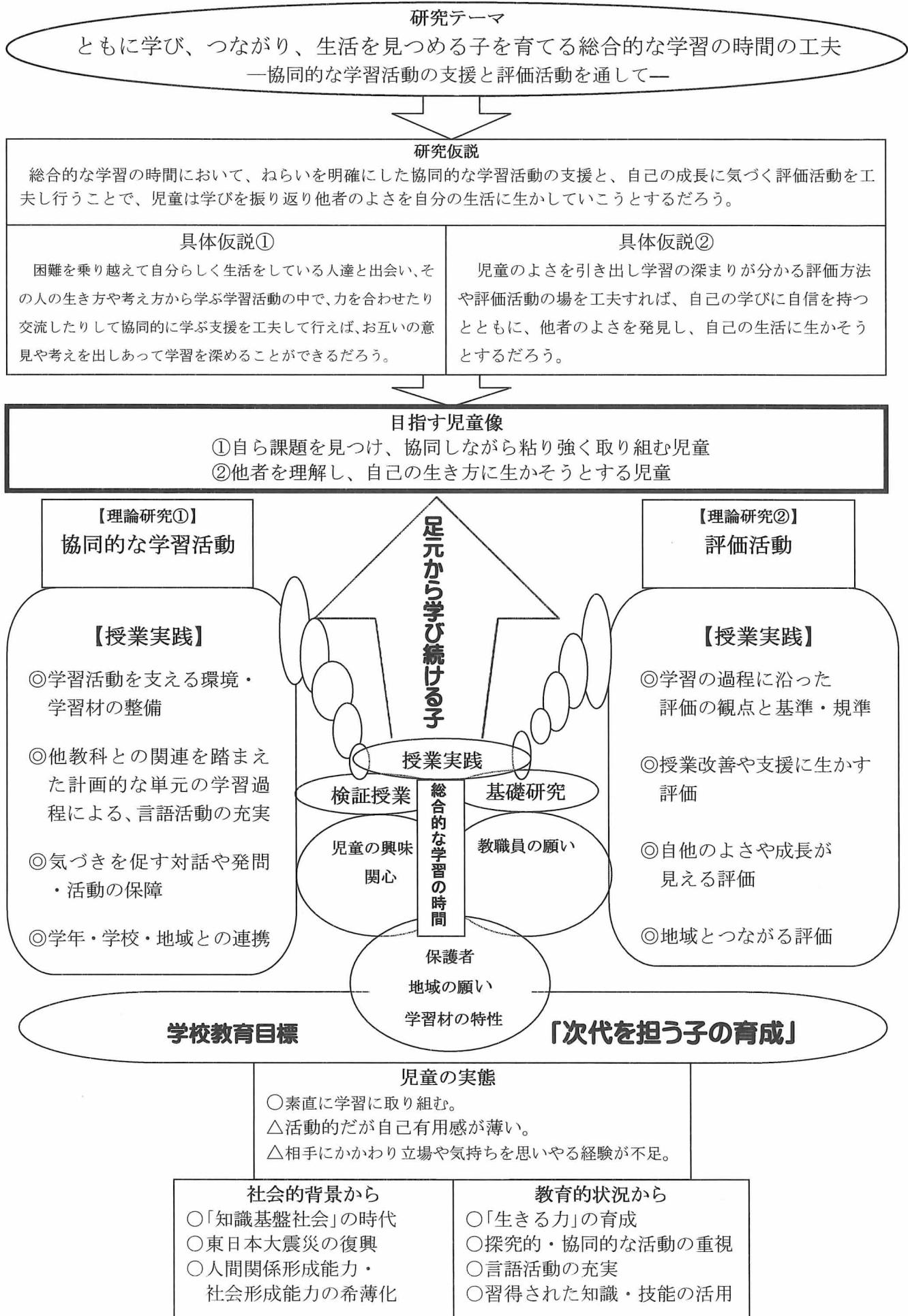
#### 1 基本仮説

総合的な学習の時間において、ねらいを明確にした協同的な学習活動の支援と、自己の成長に気づく評価活動を行なうことによって、児童は学びをふり返り、他者の良さを自分の生活に生かしていくようとするだろう。

#### 2 具体仮説

- (1) 困難を乗り越えて自分らしく生き生きと生活をしている人達と出会い、その人の生き方や考え方から学ぶ学習活動の中で、力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ支援を工夫して行えば、お互いの意見や考えを出し合って学習を深めることができるだろう。
- (2) 児童のよさを引き出し、学習の深まりが分かる評価方法や評価活動の場を工夫すれば、自己の学びに自信を持つとともに、他者のよさを発見し、自己の生活に生かそうとするだろう。

#### IV 研究の全体構想図



## V 研究内容

### 1 協同的な学習活動について

(1)「協同的に取り組む態度」とは

総合的な学習の時間の目標は、以下の5つの要素から構成されている。

- ① 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- ② 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、より良く問題を解決する資質や能力を育成すること
- ③ 学び方やものの考え方を身に付けること
- ④ 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- ⑤ 自己の生き方を考えることができるようすること

※波線は平成20年の改訂で新たに加わった文言※

今回の改訂で「協同的」に取り組む態度が加わったのは、他者と協力しながら身近な地域社会の課題の解決に主体的に参加し、その発展に貢献しようとする態度を育むことが必要とされるからである。そのために、お互いに考えや意見を出し合い、見通しや計画を確かめ合い、他者の考えを受け入れながら、問題の解決や探究活動を協同的に行う学習経験の積み重ねが大切になる。

(2) 他者と協同して問題を解決する学習を行う価値

小学校学習指導要領解説第8章第2節(2)による「協同的に学ぶことの価値」をまとめます。

- ① 多様な情報の収集につながり、適切に活用することで探究的な学習活動へと高まること
- ② 異なる視点から検討することで、事象に対する見方や考え方方が深まり、さらに探究的な学習活動へと高めていくことができる
- ③ 地域の人と交流したり友達と一緒に学習したりすることで、相手意識を生み出したり、学習活動のパートナーとしての仲間意識を生み出し、社会参画の意識を目覚めさせること

本単元は、困難を乗り越えて生き生きと生活を営んでいる地域の方々との交流を基にして構成されている。従って、「協同的に学ぶことの価値」は、児童同士の関係からだけではなく、地域の方や保護者・異年齢の児童等とともに学ぶ場があり、上記のような価値に迫っていくものと考える。

(3)「福祉」を協同的に学ぶ意義

小学校学習指導要領第4章第1節(5)及び第2節(3)によると、学校の実態に応じて取り上げられる学習対象の例として以下のものを挙げている。

- 横断的・総合的な課題……………国際理解・情報・環境・資源エネルギー・福祉・健康・食・科学技術
- 児童の興味・関心に基づく課題……キャリア・ものづくり・生命
- 地域や学校の特色に応じた課題……町づくり・伝統文化・地域経済・防災

「福祉」を含め、上記のような横断的な課題及び日常生活や社会とのかかわりの中から見出される課題は、社会の変化に伴って切実に意識されるようになってきた現代社会の諸課題である。そしてそれは、正解や答えが一つに定まっているものではなく、従来の各教科の枠組みでは必ずしも適切に扱うことができない。したがって、こうした課題を総合的な学習の時間の内容として取り上げ、具体的な学習活動としていくことには大きな価値がある。また、答えが多様にある福祉などの課題を児童が学習する時は、主体性、創造性、協同性を發揮しながら納得できる見方や考え方、解決の方法等を自分たちで生み出すことで自分の学びや成長に自信を持つものと考える。

「福祉教育は、“つながる”教育であり、人の思いや情熱が人ととのつながりを創り、人を変える」と、神里博武(2008)は述べている。また神里は、松田次生が行った調査研究「当事者評価に基づく障害疑似体験の検討」(2002)を引用して、アイマスクなどの疑似体験学習を行う場合は「障がいを持つ方がどのような場合に不自由を感じる状況に置かれるのか」という視点をおさえる事が正しい障がい(者)理解の上で大切」だとも述べている。

つまり、単に「目の見えない人はかわいそうだ。」といった自分の感覚の中だけの学びではなく障がいのある方の身になって行うような疑似体験学習や、障がいのある方に直接出会い本人の声を聞く機会を計画し実施する。そして単元を通して、協同的な学びを保証することで、児童は障がいを持つ方の身になって考え、その方のありのままの生き方から発達に応じた学びをすることで、「これまでの自分はどうだったのか。」と自分の生活を見直し、より良く生きていこうとするだろう。

#### (4) 様々なひとつながる協同的な学習活動

総合的な学習の時間を効果的に実践するには、保護者や地域の方々、専門家などの多様な方々の協力、社会教育施設や社会教育団体等の施設・設備など、様々な教育資源を活用することが大切である。(小学校学習指導要領第3の2の(6)より)なぜならば、総合的な学習の時間で扱う学習課題は、現代社会の諸課題を内に含んだものだからである。問題の解決や探究活動の質が高まれば、児童だけでは解決できない課題に必然的に出会う。その時、地域の方や専門家、異なる学年や世代の人達と協同的に学び、課題を追究することで、児童は、社会の一員として将来についても考えていくようになる。

外山英昭（2004）は、「ダイナミックで真実味のある総合的な学習の時間を行うには、教師がその題材やテーマに関わり第一線で生きる人とのつながり、情報を交換しなくてはならない。しかし、それは単に人材リストを作り、ゲストティーチャーを活用すればよいというものではなく、教師本人がその人とのつながりを大切にし、趣旨を説明して、教師の本気さや学ぶ姿勢を伝えることが非常に肝要である。」と述べている。

本市は障がいのある人達の社会参加の場が数多くあり、障がいを持ちながらも残された機能を生かし、自分らしい生き方を実践して輝いている方々と会える機会が様々にある。また、このような人達の日常生活や社会生活は、その人なりの様々なふうや努力、悩みや希望、周りの方々との信頼関係など、児童が自己の生き方を見つめるうえで心を揺さぶられるような事象にあふれている。

本単元は、毎日を精一杯に生きているこのような人達から、生き方を学ぶ学習の積み重ねで構成されている。従って、協力を仰ぐときには、育てたい子ども像をしっかりと持って信頼関係を築きながら進めていくとともに、事前の打ち合わせを十分に行う事が大切である。以下に、本単元の実施に協力してくださったゲストティーチャーのデータバンクを記す。

表1 ゲストティーチャーのデータバンク（その都度追加する方法をとる。）

T・Iさん	バイク事故で下半身不随になるが、バスケットとの出会いがあった。 車いすバスケットプレイヤー兼「シーサーズ」の監督。うるま市石川在。
K・Oさん	中途全盲になるが、音楽がきっかけで立ち直った。オペラをたしなんでいて、コンサートを開いている。うるま市赤道在。

## 2 総合的な学習の時間における評価活動について

### (1) 学習状況の評価に関する基本的な考え方について

総合的な学習の時間における児童の学習状況の評価は、児童がこの時間の目標について、どの程度実現しているかという状況を把握することによって、適切な学習活動に改善するためのものである。また、その結果を外部に説明するためのものである。

評価の信頼性を高めるには、児童にはどのような資質や能力及び態度が育まれているのか、児童は何を学び取っているのかを、多様な評価方法で行うことが大切である。また、結果だけではなく学習過程の評価を意識して行い、それを指導に役立てることが重要である。なお、総合的な学習の時間では、児童の内に育まれているよい点や進歩の状況などを積極的に評価することが欠かせない。すなわち、学習のめあての明示、自己評価ができる仕組みの提供などを通じて、児童自身が自分のよい点や進歩の状況に気づき、自らの可能性や成長を実感できるようにすることも重要である。

### (2) 評価の観点と評価基準・規準について

平成20年に改訂された学習指導要領で例示されている評価の観点は、以下の3通りである。

- ① 総合的な学習の時間の目標に基づいた観点
- ② 「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわり」等の視点をふまえ設定した資質や能力及び態度に基づいた観点
- ③ 各教科の評価の観点との関連を明確にした観点

これを受けて、本校の総合的な学習の時間は、総合的な学習の時間の目標に基づいた観点で評価を行っている。しかし、実現したい児童の姿が想起しやすいことや、新学習指導要領が示している探究的な学習過程により対応しやすい評価であることから、本単元の評価は、資質や能力及び態度に基づいた観点で行う。以下に、本単元の評価の基準及び規準を示す。

表2 本単元で育てようとする資質や能力・及び態度の基準

【学習方法に関すること】
ア 体験学習や友達との交流による気づきの中から、課題を設定する
イ 相手や目的に応じて、分かりやすくまとめて表現する
ウ 学習の仕方や進め方を振り返り、学習や生活に生かそうとする
【自分自身に関すること】
ア 目標を設定し、課題の解決に向けて行動する
イ 自らの生活のあり方を見直し、実践する
【他者や社会との関わりに関すること】
ア 異なる意見や他者の考え方を受け入れる
イ 他者と協同して課題を解決する

表3 本単元「つながろう・こころとこころ」の評価規準

学習方法に関すること		自分自身に関すること	他者や社会に関すること
課題の設定	思考・分析	自己理解	他者理解
○学習を通して、身体の不自由な方の生活や気持ちを考え、課題を設定している【学】－ア ○中間報告会で学んだことや気づいたことを基に、学習のねらいにより迫れる課題を設定している【学】－ア	○中間報告会や発表会で、伝え方やまとめ方を工夫しながら取り組んでいる【学】－イ ○これまでの活動の中で必要なことからを選び、学んだことを生かしながらまとめ、表現することができる【学】－ウ	○課題を追究するために計画を立て、調べ学習やたんけん学習を主体的に進めている【自】－ア ○自分の生活を見直し学んだことを生かしてよりよく生きていこうとする【自】－イ	○たんけん活動などで出会った方のすばらしいところに関心を持つ【他】－ア ○報告会や発表会などを通して、友達の考え方のよさを認めている【他】－ア ○役割を分担したり助け合ったりしながら課題を解決している【他】－イ

なお、単元のねらいに迫る上でとても重要な学習活動の場面では、評価規準を単元計画に明記するとともに、児童の学習活動や作品を記録し集積することで、個に応じた具体的な支援の手がかりにする。また、評価規準に関わらず、教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が児童にあらわれた場合は、その姿を価値付けてよさを記録し、次の授業実践に生かすことも大切である。

### (3) ポートフォリオによる評価について

ポートフォリオ評価とは、残す意味がある学習記録を選んで子ども自身の目の前でファイルすることを通して、次のような4つの視点でメタ認知を育てることを意図する評価である。

- ① 児童が達成したことが何であるかを児童自身に明確に伝える。
- ② どうしてそれが高く評価されることなのかを分からせる。
- ③ 児童自身の達成感や自尊心、あるいは自己効力感を高める。
- ④ 次の課題が何であるかを示す。

学習過程を見る評価方法であること、児童が自分の成長と達成を知ることで自己を肯定的に見ること、自己評価・相互評価・他者評価などの多様な評価が可能のことから、総合的な学習の時間にポートフォリオによる評価を行うことは、非常に有効であると考える。

### 3 総合的な学習の時間における言語活動について

平成20年中央教育審議会答申において、学習指導要領の改訂に当たって充実すべき重要事項の第1に、言語事項の充実を挙げ、各教科を貫くような改善の視点として示されている。

総合的な学習の時間は、探究的な学習活動によって構成され、その中では様々な言語活動の場が用意され、思考力・判断力・表現力の育成が図られている。平成20年答申に示された言語活動の多くが、総合的な学習の時間の学習プロセスに本来的に含まれている。以下に、平成20年答申に示された言語活動の種類を記す。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する。
  - ② 事実を正確に理解し伝達する。
  - ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり、活用したりする。
  - ④ 情報を分析・評価し・論述する。
  - ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。

言語活動を実施するに当たっては、各教科等で行われている言語活動の関連を意識した学習活動を工夫し、生きて働くように意図的に指導することが大切である。以下に、国語科の学習内容を生かして児童が中間報告会で作成したワークシートと3年生に伝える会で作成したシナリオを示す。

## 図1 報告文の学習を生かし調べたことをまとめた 児童のワークシート（中間報告会）

## 図2 説明文の学習を生かして作った児童のシナリオ (3年生に伝える会)

## VI 指導の実際

- 1 単元名 「つながろう・こころとこころ」 (4年総合・福祉)

## 2 検証計画

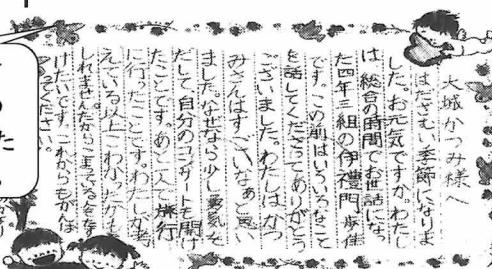
事前調査で障がいのある人に関するアンケートや ASESS による学級の実態調査、前担任への聞き取り調査を行って、児童の実態把握を行う。その後、検証授業2時間と含めた授業を37時間行う。検証は、ふり返りシートに自己評価と児童の感想を書かせ、実態を把握・分析するほか、学習活動中の児童の様子や作成した作品(ポートフォリオ)からも行う。また、単元の終末に、これまでの学習記録を元にして児童に自己評価と感想を書かせ、考え方の深まり等を分析するほか、ポートフォリオを使った面接で児童の成長を検証する。事後調査としてアンケートを児童と保護者および検証授業にゲストとして協力してくださった地域の方に実施し、児童の意識の変容や行動の変容を検証する。

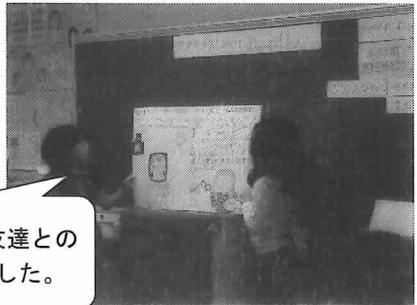
事前調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査内容：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○障がいのある人に関する意識調査（9月）</li> <li>○学級児童のつながりに関する実態調査（10月）</li> <li>○前学年までの生活科および総合的な学習の時間の児童の実態（8月）</li> </ul> </li>   <li>・調査方法：           <ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケート（評定尺度式による意識調査・ASESSによる実態調査）</li> <li>○前担任に直接伺う。</li> </ul> </li> </ul>
具体仮説	<p>(1) 困難を乗り越えて自分らしく生き生きと生活をしている人達と出会い、その人の生き方や考え方から学ぶ学習活動の中で、力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ支援を工夫して行えば、お互いの意見や考えを出し合って学習を深めることができるだろう。</p> <p>(2) 児童のよさを引き出し、学習の深まりが分かる評価方法や評価活動の場を工夫すれば、自己の学びに自信を持つとともに、他者のよさを発見し、自己の生活に生かそうとするだろう。</p>

検証場面		検証の観点	検証方法
検 証  計 画	○課題に出会う (体験学習・講話)	○課題を追究する意欲につながるような体験活動や講話を受けて、児童は障がいのある人の生活や想いに関心を持ち、学習課題を見つけることができたか。【仮説1】	・表情・つぶやき ・ワークシート ・お礼の手紙・メモ
	○グループごとに課題を追究 ・報告タイム・ミーティング ・調べ学習・たんけん活動	○調べた情報や自分の考えを交流する場で、児童は学習活動を主体的・協同的に進めることができたか。【仮説1】 ○自己評価や他者評価によって、児童は友達と協力しながら計画を立て意欲的に活動することができたか。【仮説2】	・行動観察・作品 ・ふり返りシート ・ワークシート
	○中間報告会までの取り組み・発表 <u>検証授業① 12月18日</u> (中間報告会)	○考えや意見を交流し、お互いのよさを認め合うことで、児童は学んだことに自信と意欲を持つことができたか。 【仮説1】 ○ねらいを明確にしたゲストティーチャーとの交流の場で、児童は新たに学び、課題を追究する意欲を高めることができたか。 【仮説1】	・行動観察 ・作品 ・発言 ・ふり返りシート ・ワークシート ・メッセージカード
	○3年生に伝える会までの取り組み・発表 <u>検証授業② 1月29日</u> (3年生に伝える会)	○個に応じた指導や支援を受けた児童は、学んだことや気づいたことを基にさらに発展的な課題を設定し、探究的に学習を進めることができたか。 【仮説1】 ○発表の場で、児童は学んだことを生かし、伝えたい内容をはつきりさせ、友達と助け合いながら相手に伝えることができたか。 【仮説1】	
	○活動のふり返り	○自他のよさや学習の深まりが分かる多様な評価を受けることで、児童は自他の成長を認め、学んだことを今後の生活に生かそうとしていたか。 【仮説2】	・まとめの振り返り ・アンケート ・面接・作品

### 3 単元の実際の概要 (全37時間)

学習活動	子どもの意識の流れ	指導・支援	評価規準	他教科との関連
1 DVDを視聴して、身体の不自由な方の生活に 관심を持つ。 (1時間)	<p>身体が不自由でも生き生きと生活していく、すごいな。ふしぎだな。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>比嘉さんは目が不自由なのにどうして料理ができるんだろう。</li> <li>上里さんは手が不自由でも足でパソコンができるからすごいな。</li> <li>平田さんが車いすアーチェリーで優勝するといいな。</li> </ul>	○子どもの素直な驚きや感動の声を大切にしながら対話的に進めることで、学習に期待を持たせる。	○DVDを視聴して身体が不自由な人の生活に 관심が持てたか。 (表情・発言) (ふり返りシート)	「口で歩く人」 (4年道徳)
2 体験学習を通して、身体の不自由な方の生活や気持ちを考える。 (4時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>目が見えないとできないことがあっていらっしゃるなあ。</li> <li>周りが見えなくて不安だな。</li> <li>声をかけてくれたので安心したよ。</li> <li>点字は打つのも読むのも難しいな。 ①アイマスク ②車いす ③点字体験 ④ブラインドウォーク</li> </ul>	○②・④の体験では、直後にペア・グループによる対話活動を入れることで気づきを深める。	○体験を通して障がいのある方の生活や気持ちを考えることができたか。 (表情・発言) (ワークシート)	

学習活動	子どもの意識の流れ	指導・支援	評価規準	他教科との関連
3 ゲストティーチャーの講話から、生き方や考え方のすばらしいところに気づく。(3時間)	<p style="text-align: center;"><b>目が不自由でも前向きに明るく生活しているのはなぜだろう。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>伊波さんの車いすバスケットのプレーがすごかった。僕も、夢を持ってあきらめないでたくさん練習して上手になりたいな。</li> <li>目が不自由でもコンサートに行きたくて一人で横浜まで旅行した大城さんは勇気があるな。私にできるかなあ。</li> <li>山田さんは一人で暮らしているけど困ったことはないのかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○体験学習と講話を効果的に組み合わせることで、困難を乗り越えて前向きに生活しているゲストティーチャーの生き方に关心を寄せていく。</li> <li>○学級通信に子ども達の感想を取り上げることで子ども同志の意見交流を図るとともに、保護者の理解を得る。</li> </ul>	<p><b>【他】一ア</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ゲストの生き方に感動し、関心を持つ事ができたか。 (表情・発言) (ワークシート)</li> </ul>	
4 お礼の手紙を書く(1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録を見て思い出して書こう。</li> <li>メモでまとめると書きやすいな。</li> <li>体験で気づいたことを質問しよう。</li> <li>僕の夢も知らせたいな。</li> </ul> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;">辞典やメモって意外と役に立つね。心のこもった手紙が書けたよ。</div>  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記録を見直しながら手紙を書くことを指導することで、これまでのふり返りを図る。</li> <li>○国語科との関連を図ることで、気づきや感想を自分の言葉で表現できるように支援する。</li> </ul>	<p><b>【学】一ア</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○障がいのある人の生き方を自分の生活に引き寄せて考えることができたか。 (メモ・手紙) (3年国語)</li> <li>○学習したことを生かしながら、書くことができたか (メモ・手紙) (3年国語)</li> </ul>	<p>「手紙を書こう」 (3年国語)</p> <p>「メモの取り方」 (3年国語)</p> <p>「国語辞典の使い方」 (3年国語)</p>
5 学習課題を決める(1時間)	<p style="text-align: center;"><b>もっとくわしく知りたいな。 もっと仲良くなりたいな。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目が見えなくても伊波さんみたいにスポーツをしている人がいるのかな。</li> <li>大城さんはどうやって横浜まで行ったのかな。</li> <li>大城さんがもう一度音楽を始めたときのことを知りたいな。</li> <li>大城さんはどうやって点字が読めるようになったんだろう。</li> <li>山田さんと盲導犬の生活はどんなだろう。助けてくれる人はいるのかな。</li> <li>点字でお礼の手紙を出したいな。</li> <li>山田さんは一人で生活するためにどんな工夫をしているんだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの学習を自分の記録を読み返すことで想起させ、似ている考え方でまとまるように教師が支援することで、「課題見つけマップ」を作成する。</li> <li>○「課題見つけマップ」を手がかりに、自分の興味関心により近い課題を探し、学習課題の価値に気づかせる。</li> </ul>	<p><b>【学】一ア</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでの学習を想起し、価値のある課題をしっかりと持つことができたか (発言・板書)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-left: 20px;">私はどの課題に近いのかな。</div>	

学習活動	子どもの意識の流れ	指導・支援	評価規準	他教科との関連
6 似ている課題の人とグループを作り、それぞれの学習計画を立てる。 (1時間)	<p>たんけん隊を作って協力して調べるぞ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>似ている課題の子がいるのかな。</li> <li>このグループで活動できるかな。</li> <li>どの調べ方でやってみようかな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今までの記録を読み返せたりこれからどんな学習がしたいのかを訪ねたりしながら、自分で決められるように支援する。</li> </ul>	<p>【自】一ア ○課題を追究するためにグループを作り計画を立てることができたか (行動観察) (振り返りシート)</p>	
7 電話やインタビューの仕方を練習する。 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生の国語で習ったことがあるけど、本当にできるのかな。</li> <li>恥ずかしかったけどグループで練習したから自身がついたよ。</li> <li>○○さんが本当に電話で申し込んでいたからすごい。</li> <li>緊張したけどできたからうれしいな。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達が学習した内容を踏まえてワークシートを作成し、それを使って練習することで、活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○電話やインタビューが実際にできるようになったか (行動観察) (振り返りシート)</li> </ul>	
8 グループごとにたんけん学習をして、課題を追究する。 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>本や新聞で調べよう。</li> <li>インターネットで調べよう。</li> <li>インタビューをしよう。</li> <li>見学の予約をしよう。</li> <li>記録を見て思い出そう。</li> <li>調べても分からない。困ったな。</li> <li>○○たんけん隊の調べていることがこの本に載っていたよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の始めと終わりに、たんけん隊ごとに計画の確認と自己評価をする場を設けることで、主体的に課題を解決させる。</li> <li>授業の始めに「報告タイム」を設けたり、たんけん学習の進み具合が分かるような掲示を工夫することで、たんけん隊同志の交流を図る。</li> </ul>	<p>【自】一ア 【他】一ア ○興味関心を持つて協力しながら学んだことを生かして活動しているか (行動観察) (ワークシート) (振り返りシート)</p> <p>「本は友達」 (3年国語) 「インタビューや話し方」 (3年国語) 「メモの取り方」 (3年国語) 「手と心で読む」 (4年国語)</p> <p>学んだことをどう生かすのか考えてください。 (ゲストティーチャー)</p>	
9 中間報告会を開いて、調べたことを発表し合う。 (7時間) 検証① 25 / 37	<p>中間報告会を開いて、新しい発見をしよう。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かったこと、うれしかったこと・すごいと思ったこと・うまくいかなかつたことなどを生き生きと表現させる。</li> <li>意見交流を支援することで今後の学習活動がよりねらいに迫るようにする。</li> </ul>	<p>【他】一イ 【学】一イ ○協力しながら、伝え方やまとめ方を工夫しているか。 (行動観察)(作品) (振り返りシート)</p> <p>「地域交流会を開こう」 (4年国語) 「報告文を書こう」 (3年国語)</p>	

学習活動	子どもの意識の流れ	指導・支援	評価規準	他教科との関連
10 中間報告会で気づいたことを生かして、さらに活動する。 (5時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 山田さんの生活の工夫はすごいね。</li> <li>・ 苦手なこともあきらめないで練習すればきっとできるようになるんだな。</li> <li>・ 学んだことをどんなふうに生かしていけばいいのかな。</li> <li>・ ぼくも勇気を出して大城さんみたいにチャレンジしたいな。</li> </ul> <p>みんなからのアドバイスを分類してみよう。</p>  <p>意見を生かしてもっと調べたいな。</p> <p>学んだことを生かしてさらに課題を追究しよう。</p>   <p>【中間報告会での気づき】➡</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ もっと詳しく聞いてみよう。</li> <li>・ 新しい課題に挑戦しよう。</li> <li>・ 大城さんみたいに勇気を出して、授業中に手を挙げてみたいな。</li> <li>・ ガイドヘルパーさんみたいに優しくなろうと思って、勇気を出して道案内をしたよ。優しくできてうれしかったよ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○事前にゲストティーチャーと綿密に打ち合わせ、課題追究の意欲へつなげる。</li> </ul>	<p>【他】一ア ○友達の考えのよさを認めることができたか。 (ワークシート) (振り返りシート)</p> <p>【学】一ア ○気づいたことを生かして新たな課題を生みだしているか。(発言) (ワークシート) (振り返りシート)</p> <p>【学】一ウ ○新たに生まれた課題を追求したり新たに学んだ事を生かしたりしながら、学習を進めているか。(作品) (行動観察) (振り返りシート)</p>	
11 今までに学習したことを見直して、3年生に伝える会を開く。 (6時間) 検証② 35 / 37	<p>「3年生に伝える会」を開いて、私たちの考え方や気持ちを伝えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年生が受け継いでくれるように、わかりやすく伝えよう。</li> <li>・ シナリオや資料も工夫しよう。</li> <li>・ 大きな声で発表しよう。音読を毎日練習しよう。</li> <li>・ 今までお世話になった方や家族にも伝えたいな。みんなで協力しよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○3学年の先生方との共通理解や国語科との関連を図り、効果をあげる。</li> <li>○練習時間を保障し、計画的に進められるようにする。</li> </ul>	<p>【他】一イ 【学】一ウ ○役割を分担し、相手に伝わるよう工夫して表現しているか。 (行動観察)(作品) (振り返りシート)</p>	<p>「手と心で読む」 (4年国語) 「発表会をしよう」 (4年国語)</p>

学習活動	子どもの意識の流れ	指導・支援	評価規準	他教科との関連
ときどきするけど、しっかり伝えよう。		○発表に自信が持てない児童には、細かな指導を行い、達成感を持たせたい。	○自他のよさやがんばりを認めることができたか。 (作品) (発言) (ワークシート)	
12 学習活動を振り返る。 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表が苦手だったけれど、友達と協力した。総合のおかげで自信がついた。</li> <li>自分でもがんばったと思う。5年生でもがんばりたい。</li> <li>障がいのある人もない人も、自分の夢に向かって努力して生きていることが分かった。</li> <li>ぼくも部活動でレギュラーを取るまであきらめないがんばろうと思う。</li> <li>自分が変わったので、びっくりした。総合で学んだことは、一生忘れずに生かしていきたい。</li> </ul>	○これまでの学習を作品や記録から掘り起こし、自己の生き方を生き生きと振り返ることができるようにする。 ○児童の実態に応じて、たんけん隊ごとの面談や、個人の面談をして一緒に振り返ることで、自己の成長を認めるように支援する。	【自】一イ ○これまで学習を支えてくれた人達に感謝し、自分の成長を認め、生活に生かす意欲を持てたか (まとめのふり返りシート)	

## VI 仮説の検証

本研究では、学習領域「福祉」において、ねらいを明確にした「協同的な学習の支援」と「評価活動」を工夫することにより、ともに学び、つながり、生活を見つめる児童を育てることができたかを、教師による観察や児童によるワークシート・自己評価・アンケート等の記述や作品、保護者や地域の方の感想などから単元全体を通して検証していく。

### 1 具体仮説(1)の検証

困難を乗り越えて自分らしく生き生きと生活をしている人達と出会い、その人の生き方や考え方から学ぶ学習活動の中で、力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ支援を工夫して行えば、お互いの意見や考えを出し合って学習を深めることができるだろう。

#### (1)体験学習が生きる単元計画の工夫について

小学校学習指導要領第5章第3の2の(4)によると、総合的な学習の時間においては、体験活動を行うことによって児童の学習をいっそう充実したものにするために、問題の解決や探究活動の過程に適切に位置づけることが求められている。

本単元では、学習対象との出会いを魅力的で豊かなものにするために、課題設定の場面で、ねらいを明確にした体験学習を十分に行った。その際に、児童の興味・関心の傾向を考慮した上でゲストティーチャーと事前に打ち合わせを行った講話と組み合わせた。そして、気づきを促す発言を教師が行い、書く活動を入れてペアやグループで感想を交流させた。その結果、児童の気づきが深まり、一人一人が驚きや疑問を持って課題を追究する意欲につなげることができた。

### 《 車いす体験で車いすバスケット選手の講話が自分事になった感想 》※児童の学習記録より

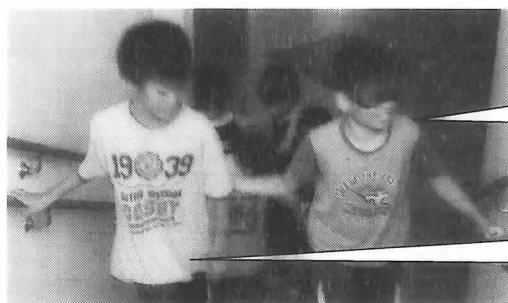
私は、高い段差とか一人で（車いすで）できなかつたので、伊波さんはどうやって段差を上るのかとっても気になりました。

車いすはとっても難しいので、ぼくのひいおじいちゃんもとってもきついと思いました。だから、伊波さんが車いすバスケットで全国大会出場なんてすごい。



図3 体験学習後の講話を聞く児童

### 《 ペアトークで深まったブラインドウォーク・ガイドヘルプ体験の感想 》※児童の学習記録より



こわかったけど、気持ちを伝えたら、良平さんがちゃんと連れて行ってくれたので安心しました。

（アイマスクをしている）パートナーは、やりにくいのかなあ。相手の気持ちが知りたいです。

図4 ブラインドウォーク・ガイドヘルプ体験をする児童

### （2）児童の考え方や想いを交流する場の工夫について（情報の収集の場面）

課題が決定すると、児童は課題の解決に向け、学習活動を探究的に進める。総合的な学習の時間は各たんけん隊ごとの活動が多いが、本来は学級全員で学び合い、つくり上げるものである。

そこで、教室の背面に、各たんけん隊の活動の進み具合が分かるような掲示コーナーを作り、各たんけん隊どうしの情報交換の場とした。また、授業開始の5分間に報告を学級全体にする場「報告タイム」を設けた。その結果、教師や学級の児童に励まされながら、インタビュー活動で得た驚きや感動・失敗談などを進んで発表するようになった。さらに、他のたんけんの活動にアドバイスをしたり、他のたんけん隊が分からなくて困っている情報を自宅で調べて教える児童も出てきた。

#### 事例1【報告タイムと掲示コーナーでつながる】

「スリーセブンたんけん隊」は、「目が不自由な人の生活の工夫」を調べるために、山田さんの自宅を伺った。そこで、大量のプルタブを発見し、不思議に思って山田さんにインタビューした。このプルタブは、山田さんのご両親の介護を支えた沖縄市社会福祉協議会に車いすをプレゼントしたいという願いで、10年以上かけて集めたものである。この話を聞いたたんけん隊のメンバーは感動して次の日「報告タイム」で発表した。

それを聞いたA児は、後日、ポケットにいっぱいのプルタブを持ってきて「みんなで集めたら車いすが買えるかもしれないよ。」と提案した。

これをきっかけに、「スリーセブンたんけん隊」は、中間報告会の後、たんけん隊の名前を「プルトップたんけん隊」に改め、掲示コーナーで学級にプルタブ集めを呼びかけた。そして、「3年生に伝える会」にのぞみゲストとして来校した山田さんに、みんなで集めたペットボトル7本分のプルタブをプレゼントした。

このように、児童がお互いの情報や意見を交流しアイデアを出し合うことで、学習の視点が広がり、ダイナミックに展開するきっかけとなった。

どうしてプルタブを集めているんですか？



図5 山田さんにインタビュー

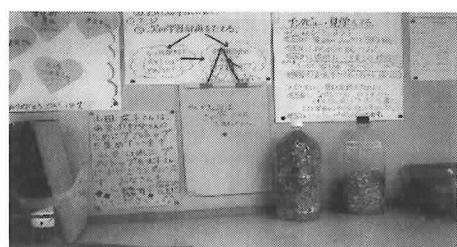


図6 掲示コーナーで呼びかけ

(3)児童の思考を揺さぶるための、意図的な質問・助言・共感的な投げかけについて

学習指導要領第5章第3の1の(1)に「児童の学習状況に応じて教師が適切な指導を行うこと」と明言しているように、総合的な学習の時間における問題の解決や探究活動の展開では、いかにして教師が意図した学習を効果的に生み出していくかが重要になる。学習活動がさらに発展するためには、児童の心を揺るがすような学習過程や教師の発問、さらに教師自身も児童ともに感動を表現し、学ぶ姿勢が大切である。以下に、教師の指導で児童の協同的な学習活動がさらに探究的・発展的に展開した事例を16ページから17ページまでに記す。

**事例2【切り返しの質問でねらいに近づく】**

**12月19日・検証授業①・「中間報告会」**

「中間報告会」とは、お互いのこれまでの活動を見直し、意見を交流することで、次の活動への参考と意欲付けとする場である。聞き手となる児童からは、活動が活発になるようなよい質問や意見を引き出すことが大切になる。ところが本時は、児童が「中間報告会」のねらいを十分に理解するほど意識が高まっていなかつたことと、紙芝居・巻きもの・大型絵本など、発表の方法が多様だったために、聞き手の感想や質問が発表の仕方に偏ってしまった。そこで、「大城さんは目が不自由なのに、どうやって美術館で絵を楽しんだのか。」という質問を聞き手に投げかけた。すると、「点字の絵だった。」「においや音の絵だった。」など、発表の内容に関連した意見が出て、ゲストの大城さんに「目が不自由な方でも楽しめる美術館」の話を伺えた。

発表者の活動を高める支援としては不十分だったが、切り返しの質問をしたことで、ゲストとの交流をひきだすことができた。このことがきっかけとなって、児童の学習活動の意識は、学習や発表の形態から学習内容へと高まっていた。

授業反省会の中で、児童が作った大型絵本の中の文章の書き方や、意見を交流するときの発表の仕方から、児童の発達の段階に応じた言語活動の指導が不十分だったという指摘があった。総合的な学習の時間で学んだことを表現し自分のものにするためには、言語活動の充実が図られなければならない。また、言語活用能力は総合的な学習の時間で活用されてさらに身につく。教師は単元で育てたい児童観をしっかりと持ち、各教科との関連事項を踏まえ、言語活用能力を高める指導を計画的に行う必要があることが明らかになった。

大城さんは、においや音  
で絵を見たと思います。



図7 考えを発表する児童

みんなの考えた美術館  
ができたら素敵ですね。



図8 美術館の話をする大城さん

中間報告会の後、それぞれのたんけん隊の児童達は、「これまでに何を学んできたのか。」「これから何を追究したいのか。」を、教師の助言を得ながらふり返った。そして、すべてのたんけん隊が、児童自身の実態に応じた発展的な課題を考え出したり、単元のねらいにより近づくような課題を生み出したり、たんけん隊の名前を新たな学習課題にふさわしいものに改めたりした。さらに、学習課題の対象が、「目の不自由な人」といった一般的な表現だったものが、「大城さん」「山田さん」と親しみを込めた個人の名前で示されるようになった。以下に、児童の学習課題例の一覧表を示す。

表4 探究的な学習へと展開した学習課題例 ※下線は発展的な学習課題となるキーワード

たんけん隊の名前 (変更前の名前)	中間報告会までの学習課題	中間報告会以後の学習課題
盲導犬 (うちなー)	盲導犬は、目の見えない人とどうや って生活しているのか。	山田さんとニフティの一日の生活から 学んだこと。
買い物 (ハッピーズ)	視覚障がいの方は、どんな風に 買い物をするのか。	目の不自由な人のために、点字の入っ ている商品を作つて広めよう。

これらの中には、地域や社会に目を向け新たな課題を追究したたんけん隊もあった。（事例3）

### 事例3【発展的な課題を追究し、社会とかかわって自己有用感を高める】

買い物たんけん隊は、初めのうちは、「目が不自由なのにどうやって買い物をするのだろう。」という学習課題を持って、地域のスーパーに行き、店長さんにインタビューをした。活動の後、「せっかくお店に来たのだから、点字のついている商品を調べてみようよ。」という教師の誘いを受けて調べてみると、予想以上に少ない。これには児童も教師も驚いた。そこで教師は、児童と一緒に、「こんなに少なかったら、大城さんは困るだろうね。」「お酒なんて同じ点字だよ。不便だろうね。」と気づいたことを話し合った。やがてこのたんけん隊は、点字のついている商品を増やすことはできないのかな。」という新たな学習課題を持ち追究していった。

まず、山田さんにインタビューをし、「山田さんは、カレーもシチューも、ルー容器が一緒なのでよく間違って困るそうです。」と報告タイムで発表した。そして、このたんけん隊は、大城さんや山田さんの力になりたいという想いが原動力になり、ルー容器に点字や目印をつくることを考案し、試作品を作り大手食品会社（ハウス食品）に手紙を添えて郵送した。「伝える会」でこの試作品を直接触った山田さんは、「あなた達は小さな発明家ですね。」と喜んでくださった。

その後、この会社から、前向きなお返事をいただいた。夢のような話で信じられなかつた児童達だったが、クラスの友達に「商品化したらすごいね。」「日本中の目の不自由な人達が助かるね。」と賞賛してもらったことで、実感が沸き、会社からのお手紙をうれしそうに読み返していた。

自分達の行動に対して返答が届き、ゲストティーチャーの山田さんや学級の友達に認められたことで、児童達は自己有用感をもつた。そのことを、B児は「まとめのふり返り」の感想の中で次のように書いている。

……（前略）ぼくは、県外に電話をかけて手紙を出しました。返事が来たときはとってもうれしかったです。勉強して点字を作ったことが人の役に立ったので本当によかったと思いました。3年生にも、人の役に立つことをしてもらいたいです。

商品になったら、山田さんは  
とっても助かるだろうね。  
楽しみだな。



ルーの容器に点字があつたら、  
シチューと間違えないよ。

図9 工夫してやっとできた試作品

このように、ねらいをもつた指導で発達段階に応じた協同的な学習を進めることで、子ども自身が学び成長した。そして、教師の切り返しの質問や共感的な投げかけがきっかけになって、児童にとって切実な学習課題が生まれた。そして、探究的・発展的な学習へと展開し、学校から地域・社会へ発信することで他者からも認められることで自己有用感が高まったと考える。

#### (4)学んだことを価値づけ、達成感を持たせる支援について

児童主体の学習を成立させるためには、教師は肯定的な児童観に立ち、主体的な学びを見取って意義づけたり価値づけたりすることが大切である。本時は本校3学年児童との交流「3年生に伝える会」（以下、「伝える会」）を通して、これまでの学びの価値を確認し達成感を持つことをねらいとした。「伝える会」の発表方法は、お互いの意見が直接伝えやすいことから、ポスターーション形式で行うこととした。取り組みにあたっては、事前に3学年の先生方と話し合って授業のねらいや進行の仕方などの共通理解を行った。シナリオづくりでは、国語科の既習の説明文・報告文の学習内容を想起しながら取り組ませた。児童は、悩みながらも自分たちの力でシナリオを作成した。また、4年国語科「発表会をしよう」との関連を図り、それぞれの学習のめあてに迫りながら活動時間保障し、伝えたいことがより豊かに分かり易く自信を持って表現できるよう支援した。

児童は、中間報告会までの学びを通して、この学びの価値をうっすらと捉え始めていた。そこで、児童自身でこの学びの価値をさらにはつきりと自覚し、自己の成長を認められるように成長してほしいと考え、「伝える会」の取り組みの中で、機会あるごとに、「何を3年生に伝えたいのか」「どうしてそれを伝えたいのか」を、児童に問い合わせながら進めていった。さらに、伝える相手を、単元「伝えよう・こころとこころ」をこれから学ぶ3年生にした。それらのことでの、児童は、自分の学びに対する誇りや伝える責任の重さを感じながら、活動に真剣に取りくんだ。（15～16頁参照）

#### 事例4 【計画的な指導と評価で意見の交流を充実させた】

##### 1月29日・検証授業②・「3年生に伝える会」

まず、授業の初めに、聞き手と話し手の考え方や感想を交流することでよりよい学習ができるることを全体で確認した。そのために「発表するときに気をつけること」・「聞くときに気をつけること」を、板書と3・4年生両方の児童のワークシートに明示して、意識を持つよう図った。

発表はポスターーション形式なので、児童は、同じ発表を3回行う。その利点を生かすために、予め、当日の各たんけん隊の発表の様子と3年生から出される意見を予想した。そして、どのたんけん隊にどんな支援をするよりよい学習ができるのかプランを立てた。その上で、「伝える会」の当日は計画的に巡回し、声かけや支援を行った。そのため、緊張していたたんけん隊のメンバーは、教師のアドバイスを生かして堂々と発表できた。

さらに、交流が活発になるように、児童のよいところや改善点を学習のめあてに沿って各グループをみとった。そして、スポーツたんけん隊が質問に答えきれず、「今度調べておきます。」と答えたことに対して、質問をした3年生が「楽しみにしています。がんばってください。」と返した場面をとらえて、「お互いを高め合うよい意見が出ましたよ。」と紹介し勇気づけて、意見の交流を促した。

このように、「気をつけること」を意識し意見を出し合う具体的な様子を全体に紹介するなど、めあてに沿った評価やアドバイスを行ったことで、児童は、次の発表に生かすことができ、2回目・3回目と次第に自信を持ち、励ましあって発表するようになった。授業研究会では、押さえるべき共通事項や、ゲストティーチャーに備わっている価値やその扱いについて課題が指摘された。

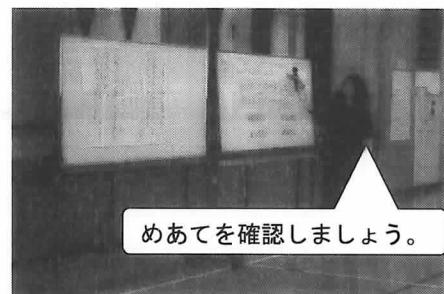


図10 全体にめあてを確認



図11 教師の支援で気づき質問する



図12 プルトップ贈呈式での山田さん

#### 検証授業②

実施日：平成25年1月29日（火）2校時

実施場所：うるま市立中原小学校体育館

ア 授業名 「3年生に伝える会」（本時 35/37）

- イ 授業の目標
- ・今までに学んで追究してきたことを分かりやすく楽しく3年生に伝えることができる。
  - ・今までに学習してきたことの価値を確認し、自己の生き方に生かそうとすることができる。
  - ・伝えたいことを焦点化して発表できるように教師が事前指導・支援することによって、児童は自信を持って3年生に伝え、自己の学びに達成感を持つてこれから的生活に生かそうとするだろう。
  - ・3年生の意見や感想、ゲストティーチャーの話を聞くことで、児童は温かい気持ちと誇りを持つことができるだろう。
- ウ 授業の仮説

## エ 授業の展開 (2部構成)

学習活動	教師の指導・支援	☆ 資料・場 ◎ 評価
1 学習のめあてと学習の進め方を確認する。	○学習のめあてを話して意欲付けをする。 ○「発表のめあて」・「聞くときのめあて」を提示する。 ○プログラムの確認をする。	☆学習のめあて ☆プログラム
2 発表する。 (ポスターセッション形式)	○意図的に質問・意見を出して3年生との交流を支援する。 ○発表後に、評価を全体に伝えることで、意識を高める。	☆9つのコーナー ◎相手に伝えようとしているか。
3 ゲストティーチャーの話を聞く。	○学んできたことをふり返り、これから的生活にどのように生かすのか考えるきっかけにする。	☆ワークシート ◎今までの学びに誇りを持つことができたか。
4 教師の話を聞く。	○この学習で教師も学んだことを紹介することで、学び合って成長してきた自分たちの姿に気づかせる。	
5 学習の感想を書く。	○3年生と4年生の感想を意図的に紹介する。	
プレトップ贈呈式	○達成感と有用感を持たせる。山田さんの感想から学ぶ。	

## オ 児童の自己評価と分析・考察

自己評価の項目	児童の自己評価	分析・考察
協力して進めることができましたか	・とてもそう思う(25人) ・そう思う(12人) ・思わない(1人)	・準備から練習・場の設営に至るまで、協力しながら取り組んできたことが肯定的な評価に結びついた。 ・「思わない」とした児童は、発表中に友達と口論があったため。
3年生に伝えることができたと思いますか	・とてもそう思う(20人) ・そう思う(17人) ・思わない(1人)	・「そう思う」が半分近くあるのは、向上は見られるものの、伝えるための技能が不十分だったために3年生からの感想がなかなか出ないことがあったためだと考える。 ・「思わない」とした児童は、理由を「緊張で自分の声が小さかったから。」と感想に書いていている。
「伝える会」を開いてよかったです	・とてもそう思う(30人) ・そう思う(8人) ・思わない(0人)	・すべての児童が肯定的な評価をしている。その上、30人の児童が「とてもそう思う」と評価していることから、達成感が十分得られたものと考える。
【「伝える会」を開いてよかったですと思った理由】 ※児童の感想より抜粋 「拍手がうれしかったから」・「質問や意見が出たから」・「真剣に聞いてくれたから」・「3年生にいいことを伝えたから」・「分かりやすく大きな声で言えたから」		・伝える相手を次年度に学ぶ3年生にしたことで、お互いに目的意識がはっきりしていた。そのことで、発達段階に応じた真剣な学び合い(協同的な学び)ができたものと考える。 ・障がいのある方への想いが感想に反映されなかった。ゲストティーチャーの選択や授業展開の順序に課題があったと考える。

### (5) 児童が持つ、障がいのある方のイメージの変容 (5段階評定の尺度による調査結果より)

児童はこの単元を学習することで、障がいを乗り越えながら輝いて生活している方に出会い、人としての生き方を生の声や姿から児童の発達段階に沿って学び合うことで、感動し、その想いを互いに分かち合った。この学びで、障がいのある方へのイメージも大きく変わった。

沖縄県社会福祉協議会が実施した「小学生の福祉意識に関する調査(2001年3月)」を参考に作成した9月(事前)と2月(事後)の調査の結果から、本学級の児童が持つ「障がいのある方のイメージ」の変容について以下に述べる。

この調査は、単元「つながろう・こころとこころ」の学習を始める直前(9月24日)と単元の終末(「まとめのふり返り」の授業を行う直前・2月1日)の2回実施した。調査対象は、本学級児童(男子24名・女子16名・計40名)である。評定については、評定尺度法(以下・SD法)を用い、5段階評定で行った。SD項目の中で、最も否定的なイメージから最も肯定的なイメージの順に1点から5点を配点し3点を中立点(どちらでもない)とした。以下に、障がいのある方のイメージの回答人数の分布と平均値(小数第2位以下は切り捨て)を示す。

表5 本学級の児童が持つ「障がいのある方のイメージ」の変容

SD項目の回答の分布と平均値（9月・障がいのある方）								
否定的なイメージ	とても といえども	どちらか といえども	どちらで もない	どちらか といえども	とても といえども	肯定的な イメージ	平均値	
① 冷たい	2	3	8	17	10	温かい	3.7	
② 病気	2	12	10	7	9	元気	3.2	
③ 小さい	1	12	12	10	5	大きい	3.1	
④ 弱い	2	15	9	7	7	強い	3.1	
⑤ 暗い	3	6	7	12	12	明るい	3.6	
⑥ 怖い	3	1	6	14	16	優しい	3.9	
⑦ 賴りない	6	12	14	3	5	頼りになる	2.7	
⑧ かわいそう	3	21	6	3	7	すごい	2.8	

SD項目の回答の分布と平均値（2月・障がいのある方）								
否定的な イメージ	とても といえども	どちらか といえども	どちらで もない	どちらか といえども	とても といえども	肯定的な イメージ	平均値	実施前 との差
① 冷たい	0	2	3	10	25	温かい	4.4	+0.7
② 病気	0	2	3	20	15	元気	4.2	+1.0
③ 小さい	0	0	11	18	11	大きい	4.0	+0.9
④ 弱い	1	3	10	11	15	強い	3.9	+0.8
⑤ 暗い	0	1	4	10	25	明るい	4.4	+0.8
⑥ 怖い	0	1	4	8	28	優しい	4.6	+0.7
⑦ 賴りない	0	2	8	14	16	頼りになる	4.1	+1.4
⑧ かわいそう	1	3	7	14	15	すごい	3.9	+1.0

「障がいのある方のイメージ」は、どの項目についても、より肯定的に変容した。また、否定的なイメージが激減した。特に、SD項目⑦「頼りない～頼りになる」のイメージの変容が、単元実施前の結果と比べ、+1.4と最も大きかった。それは、本単元全体を通じた協同的な学びによって、障がいのある方への意識が、頼りがいがない同情的な見方から、人生のモデルとなるような、生き生きと輝いて、頼りがいのある、尊敬する存在へと大きく変わったことを示す。ひと・もの・ことから学ぶ協同的な学びが、児童の障がいのある方への意識を大きく変え、人の見方を飛躍的に広げるような自己の成長に結びついた。人は、人とのつながりの中で学び、成長することを改めて実感した。

## 2 具体仮説(2)の検証

児童のよさを引き出し、学習の深まりが分かる評価方法や評価活動の場を工夫すれば、自己の学びに自信を持つとともに、他者のよさを発見し、自己の生活に生かそうとするだろう。

### (1) 学習過程を見直し、授業改善や支援に生かす評価活動について（整理・分析の場面）

総合的な学習の時間では、それぞれの情報や意見を整理し、自分たちで相談しながら調整するような複雑なコミュニケーションが求められる。したがって、協同的な学習を充実させるためには、児童の学習活動を毎時間評価し、個別に支援をしたり、単元計画を修正したりする必要が出てくる。

そこで、授業の終末に、その日の感想と自己評価を〔振り返りカード〕に書く時間を設け、児童が書いたカードには、一言コメントを入れて相互評価を行い、次時の目標につながるようにした。

たんけん隊ごとの活動が活発になってくると、小さなトラブルが予想以上に多くなってきた。それで、力を合わせて学習を進めることができるようにするため、毎時間の授業の中に、前の日の反省と今日の活動計画をたんけん隊ごとに集まって確認する時間を設けた。(事例5参照)

### 事例5 【児童の自己評価を授業の改善に生かす】

盲導犬たんけん隊は、発表の内容とその方法で意見がまとまらなかつた。リーダーのC児のふり返りカードを見ると、12月4日と12月6日の感想には「まよつた。」「意見が合わなかつた。」と書かれてあり、「協力できましたか」と問う自己評価欄には、△が記されていた。

教師はC児に、困っている自分の気持ちをたんけん隊のメンバーに伝えるよう励まし、話し合いの仕方と活動の分担方法を確認した。また、授業の始めに「ミーティングタイム」を新たに設け、前時の反省と活動の確認を行うことを全体に指導した。その後のミーティングタイムで、(12月7日)このたんけん隊は根気よく話し合いをすすめ、全員が納得する方法で気持ちよく活動していた。この日のふり返りシートを見ると、「協力」に関する自己評価に○をつけている。

たんけん隊のメンバー全員で真剣に相談をしたこと、C児は、問題を解決できた自分や仲間のことを誇りに思うようになった。その後のC児は、生き生きと活動し、たんけん隊の課題を自宅で調べ、アドバイスするほどに積極的に授業に参加するようになった。

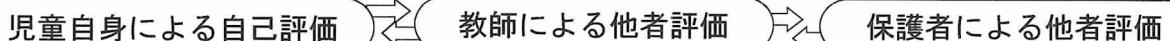


【図13】真剣にミーティングをしているC児達

日/月 (曜日)	活動したこと	一冊心にこつけたこと	
		おかげさ れのところ	あわせた ところ
11/29 (木)	中高報告会の 計画じゅく		×
12/3 (金)	中間めぐみ会 の計画じゅく	まよつた	○
12/4 (土)	学芸会	失敗せいかいしました。 がつみそんの取扱い	○
12/5 (火)	中間めぐみ会 の計画じゅく	失敗せいかいしました。 失敗せいかいしました。	
12/6 (水)	ペーパー作成 ミーティング	ペーパー作成がまよつた ミーティングもまよつた 失敗せいかいしました。	○

【図14】C児のふり返りカード

このように、児童は、「振り返りカード【図14】」に残された自分の感想や教師のコメントを手がかりにし、その日の計画をお互いに確認することで、【図13】のように自分達で課題を解決しようとする意識が次第に高まった。また、お互いを認め合うようになり、その後の意欲につながった。(2)学んだことを価値づけ、達成感を持たせるための評価活動について(単元の振り返りの場面)



総合的な学習の時間の最終的なねらいは、「自己の生き方について考えることができる」ことである。そこで、本単元の終末に自己評価させる場を設け、これまでの自分の感想や活動が記されたポートフォリオを用いて、「この学習で、自分ができるようになったり、考えが変わったなと思うことは何か。」「この学習を生かして、これから学習や生活にチャレンジしたいことはあるか。」などといった児童の思いや気づきを引き出す言葉かけをしながら、学習全体を総括的に振り返らせた。

児童は、これまでの制作物などをじっくり手にとって、心に残ったことをたどり、自己の成長を確かめながら、まとめをおこなつた。中には、ポートフォリオを見ても過去の自分の考え方や気持ちをなかなか思い出すことができない児童や、自分の学習の価値をあまり自覚していないために、教師の評価と自己評価との開きが大きい児童が10名いた。彼らには、日を改めてたんけん隊でのグループ面談や教師との個人面談を実施し、ポートフォリオを活用しながら助言をして、自己の成長を認め達成感がもてるよう支援した。そして教師は、児童のこれまでの活動の中で、成長を遂げ、その児童のよさが見て取れた場面を児童が書いた「まとめの振り返りシート」に朱書きした。さらに、本単元でつけた力を保護者に理解していただくために、この振り返りシートを家庭に持ち帰らせた。それを受け、保護者からは、家庭で見せた児童の変容や成長、本単元の感想・要望をいただいた。これは、児童の評価に反映し、今後の授業改善に生かしていく。(事例6・事例7・事例8参照)

### 事例6 【自分の成長を教師の支援で気づいた】

D児は、「まとめのふり返り」をする時に、その時々の気持ちをなかなか思い出せない様子だった。そこで教師は、D児と2人で、よさや成長の跡が分かる作品などを選びながら学習をふり返った。D児は、自分が書いた手紙が載っている学級通信を読んで、学習課題に出会うためにゲストティーチャーとしてお招きした車いすバスケットプレイヤーの伊波さんの話に感動し「あきらめないことの大切さ」を学んだことを思い出した。そして、「D児と伊波さんの姿に似ているところがあると思うよ。」という教師の声かけに、これまでの自分を見つめ、点字で手紙を作るときに苦労したことを、伊波さんの姿と重ねてふり返ることができた。

#### 【D児のまとめのふり返り】※ 波線は、単元で育てようとする資質や能力・及び態度に関すること

(前略) 伊波さんの話を聞いて、ぼくが心に残ったことは、あきらめないことです。理由は、(伊波さんは)試合に出れなくてもトレーニングをしていたから試合に出れたと思います。だから、あきらめたらだめだと思いました。大変だったことは、点字を打つときに間違ったらだめだからといへんかったです。でもぼくは、あきらめないで最後までやりました。伊波さんを思い出してやりました。

### 事例7 【協同的な学びでこれからの私が見えた】

この単元を学習する前のE児は、人前に出ると緊張してしまい、授業中の発言を好まなかった。しかし、話をしっかりと聞き、落ち着いて学習を進める様子に意志の強さや思慮深さが見られた。山田さんのものの考え方や生き方を学んだE児は、「山田さんに協力したい。」という固い決意を持ち、その後の「プルトップたんけん隊」のリーダーとして率先して活動を牽引していった。このようなE児の大きな変容は、E児自身が認めているだけではなく、家族も感動させた。

#### 【E児のまとめのふり返り】※ 波線は、単元で育てようとする資質や能力・及び態度に関すること

(前略) プルトップの呼びかけで、1・2組に行くのは勇気があまりなかったけど、たんけん隊の仲間といつしょにやることで少しは勇気を出して、できるようになりました。私は、障がい者のことを、自分一人で自分のできることをできない人と思っていたけど、障がい者は、私たち普通の人といつしょ、すごい人と思い、私の考えは変わりました。みんなが教えてくれたこと「あきらめない心」・「勇気」・「工夫と努力」その一つ一つの言葉から、私たち4年生は学ぶことができました。末子さんが車いすを買って社協にプレゼントするまで、私達は、5年生になっても、地域でも、プルタブを集めを協力したいです。この4年生で学んだことは、大人になって、役に立ち、何年生になっても忘れずに、心に残ると思います。

#### 【E児のお母さんからの感想】

総合学習が始まって以来、総合で学んだことや山田さんの話をよくしてくれるようになり、意欲的に取り組んでいるんだなと感じました。「山田さんに協力してプルタブ集めを広げていきたい。」という本人の強い気持ちは今まで見たことがありません!とても感心しています。「今度はコンビニに協力してもらう。」ということで、家では、プルタブ用の箱を作っています。プルトップ集めを、学校、家、親戚じゅうに広めている姿はとても素敵だと感心しています。総合学習によって、人を思いやる気持ちから、行動力がつき、発表力もつきました。「3年生に伝える会」に参加させていただき、4年生全體で、どの子も一生懸命取り組んでいる姿に驚かされました。今回の学習で学び、子ども達が自主的に取り組んでいることは、続けてほしいです。子ども達が学び得たことはとても大きかったです。先生方に感謝です。

児童は、学んだことを家族に生き生きと話し、さらにはE児のように家族を巻き込んで活動を開くものも現れた。協同的な学習活動によって成長した児童の姿を見て、保護者やゲストティーチャーから感想(評価)をいただいた。今回の単元学習で成長した児童の姿に寄せられた今後の期待は大きい。学びの達成感とともにこれから自分の自分に勇気づけを得た児童の表情は輝いて見えた。

## 事例8 【保護者や地域の方からの期待と要望】

※ 波線は、単元「つながろう・こころとこころ」に関する他者評価

### 【保護者の感想】

※13名の保護者の方々の感想から抽出・抜粋

相手の気持ちになって言葉遣いや行動をとってくれたことが成長したなと思い、うれしくなりました。お金では買えない相手に対する思いやりの心、優しい気持ち、勇気と行動。みんなで力を合わせて協力を積み重ねてできた感動の喜び、たくさんのがこの学習で得ることができました。

福祉学習でリーダーになり、自分なりにすごく頑張ったと思います。この総合学習で「困っている人を助けてあげたい」という気持が持ててうれしく思いました。人の気持ちや自分の気持ちは経験を通して分かり、成長していくものだと思いますので、これからも学校でこのような体験学習を増やしてくださいうれしいです。

成長を感じたことは、「言葉」。これ、あれなどの抽象的な言葉だったのが具体的な言葉を使うようになったことです。総合「つながろう・こころとこころ」を通して、S子が新しい成長をしたと実感しています。次年度も福祉学習を行ってもらいたいです。

障がい者用の駐車場に平気で車を止める人を見て、「絶対にやつたらいけないよね。」と親子で話し合いました。友達や周囲の方々にも思いやりの気持ちを持ち、「いじめ」や仲間外れのない友達作りにもつなげてくれたうれしいです。

福祉の学習で子ども達があんなにドキドキワクワクするなんて……私は何も期待してなかったのに。インターを通して相手を思い理解し感謝する心が豊かになりました。「福祉の仕事がしたい」といった時、私はとってもうれしかったです。発表がすごく苦手だったのですが、体育館の発表の時、3年生に伝える気持ちから、大きな声を出しているのを見て、うれしかったです。自信を持った子ども達の真剣な表情とても良かった。これからも、総合の学習を続けてほしいです。

### 【ゲストティーチャーの感想】

※検証授業①および②にお招きした3名のゲストの方々の感想から抜粋

学芸会に参加し、地域の交流が持てたことは私にとっても有意義でした。障がいのある私達や福祉に深く関心を持ってくれたことをうれしく思います。

こんなにこじも達が福祉について深く調べた授業に参加したことはありません。3年生に受け継ぐこともすばらしいと思いました。地域にも是非広めてもらいたいです。

障がいのある多くの方と対話し、疑問に思ったことは再訪問して質問することで、障がいのある方に対する偏った見方がなくなり深い学習につながったと思います。様々な体験を通して、人・自然・もの・事象・社会について自分のこととして考え、行動できるようになってほしいです。『支え合って生活していること』『思いやりの気持ち』を期待しています。

### 【今後の改善点として出されたもの】

※2名の方の感想から抜粋

最初の頃は、子どもたちの活動がよく分からなかつたので、インター活動では安全面についてとても気になりました。事前に、どのようなプロセスで学習を進めていくのかをもう少し詳しく教えてほしかつたです。

学級通信で事後の子どもたちの感想を読んで、協力したかったと思いました。保護者の都合がつくように前もってできるだけの詳しい計画を知らせてほしいと思います。

保護者や地域の方々・専門家などの学校外の方からは、学習の内容や取り組み、児童の育ちについてご意見をいただいた。よい評価は児童に返し、改善すべき点は今後の学習活動に生かせるように努めるとともに、学年・学校での共有化を図る必要があると考える。

### (3) 「まとめのふり返り」から見た「育てようとする資質や能力・及び態度」に関する評価

この調査は、単元「つながろう・こころとこころ」の学習の終末（2月5日）に行った。調査対象は本学級児童（男子24名・女子16名・合計40名）で、児童による自己評価で調査をおこなった。

実施に当たっては、本単元で計画した「育てようとする資質や能力・及び態度」に関する評価規準（本報告書2-6ページ掲載）を、児童の発達段階と学習過程に沿った表現に改め、「よくできた」・「できた」・「あまりできなかった」の3段階で自己評価できるように質問用紙を作成した。なお、3段階による自己評価が難しい評価規準については、学習課題や児童の感想（記述式）をもとに教師が行った。

表6 本単元で育った「資質や能力・および態度」に関する評価（児童へのアンケート結果より）

※1 ●は、児童が自己評価できるように改めた表現。

※2 《 》は、「よくできた」または「できた」と回答した児童の割合。

学習方法に関すること	自分自身に関すること	・他者や社会に関すること
○学習を通して、身体の不自由な方の生活や気持ちを考え、課題を設定している。	●調べたいことをはっきりさせて調べることができる。 《100%》	○課題を追究するため計画を立て、調べ 学習やたんけん学習を主体的に進めている ●計画を立て、進んで学習に取り組むことができる。 《100%》
○中間報告会で学んだことや気づいたことを基に、より個性的で価値のある課題を設定している。	●中間報告会の感想やその後の学習課題の変容を手がかりにして、教師が形成的に評価を実施。 《100%》	○自分の生活を見直し、学んだことを生かしてよりよく生きていこうとする。 （自己の生き方） ●「まとめ」で児童が書いた感想などを基に、教師による他者評価を実施 《80%》
○中間報告会や発表会で伝えやまとめ方を工夫して取り組んでいる。	●伝え方を工夫することができる 《100%》	○たんけん活動で出会った方のすばらしいところに关心を持つ。 ●できるようになったことがある 《100%》
○これまでの活動の中で必要なことがらを選び学んだことを生かしながらまとめ、表現することができる。	●これまでの学習を生かして、活動することができる。 《95%》 ●発表する内容を選んでまとめることができる。 《100%》	○報告会や発表会などを通して、友達の考え方のよさを認めている。 ○役割を分担したり助け合ったりしながら課題を解決している。 ●学習で出会った人達のすばらしいところを発見することができる。 《100%》 ●友達のよい考え方を見つけることができる。 《100%》 ●友達と力を合わせて学習を進めることができる。 《100%》

ほとんどの評価規準が100%，またはそれに近い高い割合で示されていることから、本単元「つながろう・こころとこころ」での協同的な学習活動における児童の達成感は大きく、学級児童の全員が「できるようになったことがある」と答えたことからも分かるように、自己の学びに自信を持ち、考えを深めたものと思われる。そこで、「総合的な学習の時間」の最終目標でもある「自己の生き方」に関して、本単元の学習活動を通して児童がどのような成長を遂げたのかを、児童自身が単元の終末「まとめの振り返り」で書いた感想の内容をもって補足したい。

表7 【単元「つながろう・こころとこころ」で児童が学んだもの】（まとめのふり返りより抜粋）

#### 学習を生かしてチャレンジしたい（29人）

- 点字の商品の工夫をもっとしたい。（5人） ○地域でプルタブを集めたい。（2人） ○学習課題を続けたい。（5人）
- 片付けの工夫をしたい。（1人） ○人見知りを直して友達を作りたい。（1人） ○手を挙げて発表したい。（1人）
- あきらめずに部活で頑張りたい。（2人） ○困っている人を助けたい。（2人） ○妹と仲良くしたい。（1人）
- 家族の手伝いをして優しくなりたい。（2人） ○総合の学習を生かして5年生でも頑張りたい。（6人）
- この学習を一生忘れずに生かしていきたい。（1人）

### 障がいのある人への見方が変わった（17人）

- 「かわいそうな人」から「すごい人」に変わった。（10人） ○私たちと変わらない普通の人だった。（4人）  
○私たちと同じで、夢に向かって努力している人だった。（1人） ○命の大切さを教えてくれる人だった。（2人）

### 自分自身が変わった（9人）

- 勇気が出せるようになった。（4人） ○進んで家で学習するようになった。（1人） ○優しくなった。（1人）  
○人の心が少しづつ分かるようになった。（1人） ○生まれたことに感謝するようになった。（1人）  
○あまりあきらめなくなった。（1人）

このように、児童は、障がいに向かいながら自分らしく生き生きと生活する地域の方々と直接かかわり、話し合い、自分の五感を使ってその方の気持ちや考え方、生き方をともに学んだ。そして、学んだことから自分のこれまでの生活を見つめ、自分らしくよりよく変えていこうとしている自己の姿を、一人ひとりの実態に応じた評価活動を通して改めて認識したのである。

学習記録を基にして児童に適切な評価を行うことで、児童は自分の成長を確認し、学習の方向を知り、勇気をもってこれからの自分の未来を開き、そのための学びに挑戦することができる。単元の節目に学んだことをふり返る場を設けたことは有効だが、予想以上に時間がかかってしまった。しかし、それでも児童に向き合ってどんな成長を遂げたのかと一緒に確認することは非常に大切と実感した。

## VII 研究の成果・課題・対応策

### 1 成果

#### （1）協同的な学習活動について

- ① 学年・学校・地域との連携を図り、単元「つながろう・こころとこころ」を計画し進めた。  
ア うるま市社会福祉協議会の方々や、障がいを乗り越えて地域で豊かに活動している方々に協力していただいて、単元「つながろう・こころとこころ」の単元計画を作成し進めた。  
イ 保護者のみなさんの理解と協力のもとで、校外学習(たんけん隊ごとのインタビュー活動等)を引率を安全かつスムーズに行った。また、引率に協力してくださった保護者の方々にとっても、児童とともに福祉を学ぶ場になった。  
ウ 同学年や他学年の先生方との連携を図り、「3年生に伝える会」を展開して、次年度の学習につないだ。  
② 学習環境や学習材（ひと・もの・こと）の整備を行い、児童主体の協同的な学習を進めた。  
ア ゲストのデータバンク」やワークシート等を作成して児童の自主的な学習活動を支えた。  
イ 課題に出会うときに、ゲストティーチャーの講話とゲストの生活や気持ちを推し量れるような疑似体験学習（アイマスク体験など）とを意図的に組み合わせて、児童の興味・関心・驚き・疑問などをより高め、その後の課題追究での原動力に結びつけた。  
ウ 「3年生に伝える会」を設定し他学年と協同的に学ぶことで、お互い高学年として成長できた。さらに、次年度の総合的な学習の時間につないだ。  
エ 「報告タイム」・「掲示板」・「アドバイスカード」などで児童がお互いの意見を日常的に交換できるように工夫して、他学年や地域に呼びかける発展的な学習活動へと展開させた。  
③ 障がいのある方々の生き方や温かいつながりの中で、児童は協同的に学び成長した。学んで成長した児童の姿を知った保護者の方々から、大きな期待が寄せられた。教師自身も、障がいのある人の生き方から、多くのことを児童とともに学んだ。

#### （2）評価活動について

- ① 学習活動のねらいに即した評価の仕方を工夫し、児童の学習を支援した。  
ア 単元「つながろう・こころとこころ」の評価規準を「育てたい資質や能力・および態度」で設定し、目指す児童の姿を描きながら児童の学習活動を評価することでその後の指導に生かした。  
イ 毎時間の学習活動を「ふり返りシート」で自己評価させて児童の実態を把握し、授業改善に生かした。また、児童の自己評価を受けて教師が朱書きで励ましやアドバイスを入れて、学習活動をより自主的・意欲的・協同的にすることで、児童の自信や意欲につなげた。

ウ 単元の節目に、「何を学んできたのか。」「なぜ学ぼうと思ったのか。」「これから何を学ぶのか。」を児童に問いかけ自己評価をさせることで、児童は見通しを持って課題を追究した。

エ 学芸会・中間報告会・3年生に伝える会などの他学年や保護者・地域の方々からの感想を伝えることで、児童は意欲的に課題を追究した。また、学校外の意見は、授業改善に役立てた。

オ ポートフォリオによる自己評価で、児童は、障がいのある方々の生き方から学んだことに自信と達成感を持ち自己の生活を見直すきっかけになった。

### (3)その他

① 国語科との関連を図り、児童の自主的な学習活動を保障した。

ア 説明文・報告文・インタビューの仕方など、既習の学習事項を活用した学習を通して、児童は力を合わせて意見をまとめ、自信を持って発表した。さらに、学んだことを生かして食品会社に手紙を出し、自分達の意見を社会に発信した。

イ ポスター・セッション形式を学習する国語科の単元を計画的に関連づけることで、練習時間の確保ができ、それぞれの学習内容がより深まった。

## 2 課題

(1) 総合的な学習の時間で活用を図り、充実した学びを保障するための、各教科との関連や見通し

(2) 各教科の内容を生かした言語活用能力を身につけさせるための指導のあり方

(3) 学習活動を進めるにあたって保護者への事前説明のあり方

(4) 社会団体やゲストティーチャーとのスムーズで計画的な連携と活用

(5) 一人一人の学びを見取る評価活動。それを保障するための時間の確保と単元計画の見直し

(6) 総合的な学習の時間で育った力を各学年で積み上げていく手立て

## 3 対応策

(1) 各教科において、総合的な学習の時間で必要な児童の基礎的・基本的な学力を考慮し、活用を意識して習得を図る。

教科で学んだことを総合の時間で活用できる場が保障されるように年間計画を組み直す。

各教科の授業を充実させるために教材研究を密にする。

(2) 教材研究を深く行い、活用を意識して指導にあたる。積極的な自己研鑽。

(3) 学年始めの懇談会や家庭訪問等で保護者に直接説明する。

(4) 各学校の人材バンクやワークシートなどの共有化。地域コーディネータとの連携と活用。

(5) 多様な評価方法で児童のよさや興味関心、つまづきを把握し指導・支援に生かす。

計画の見直しを学校全体（校内研）で行い評価の時間を確保する。（特に課題設定の場面の精選）

(6) 総合的な学習の時間の履歴や学年間の関連事項を示した年間指導計画の作成と活用。

校内研を実施して、共通理解を図る。

## 【参考文献】

小学校学習指導要領解説 「総合的な学習の時間編」 平成20年8月 文部科学省

『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』 平成22年11月 文部科学省

『言語活動の充実に関する指導事例集・小学校版』 平成23年10月 文部科学省

神里博武 『沖縄の福祉教育』 2008年 沖縄県社会福祉協議会

嶋野道広編著 『小学校新学習指導要領の展開・総合的な学習の時間編』 2008年 明治図書

外山英昭監修・発行 『実践事例集（沖縄県版）子どもとともに学びを創る』 2004年

寺西和子 『総合的学習の評価—ポートフォリオ評価の可能性—』 2001年 明治図書

宮城アケミ 『沖縄発総合学習—山原船がきた海辺の町』 2001年 民衆社

佐野金吾・小島宏編著 『新しい評価の実際③総合的な学習の時間』 2001年 ぎょうせい

鈴木敏恵編著 『ポートフォリオで評価革命！』 2000年 学事出版

丸木雅臣・行田稔彦編著 『総合学習「沖縄」—私たちの沖縄体験』 1990年 民衆社

外山英昭 『地域学習と調べる社会科』 1985年 民衆社